

金城大学

令和4年度 大学機関別認証評価
評価報告書

令和5年3月

公益財団法人 日本高等教育評価機構

金城大学

I 評価結果

【判定】

評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

II 総評

「基準 1. 使命・目的等」について

大学の三つの教育の特色を明確に掲げており、全教職員の共通理解を図り、学生にも浸透し教育活動によく反映している。大学の使命・目的及び教育目的は組織的に継続的な見直しを行い、学生便覧、ホームページ等に掲載し学内外へ周知している。大学の使命・目的は「学校法人金城学園第 3 期中期計画（令和 3(2021)年 4 月 1 日～令和 8(2026)年 3 月 31 日）」（以下「第 3 期中期計画」という。）に反映し、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に生かしており、3 学部 5 学科 1 研究科を設置して教学活動を実践し、その具現化に努めている。また、学部と直結した委員会の配置により業務の効率化を図っている。

〈優れた点〉

○法人のビジョン・中期計画を理事長が毎年教授会で説明し、大学の使命・目的の再確認を毎年組織的に行うなど、共有・浸透・実践に常に注力している点は評価できる。

「基準 2. 学生」について

アドミッション・ポリシーのもと多様な選抜制度を設け、入学者選抜を適正に実施し、IR 委員会で入学者選抜の妥当性について検証を行っている。大学全体として概ね学生数を確保しているが、「戦略 WG」「学生プロジェクト WG」「高大連携 WG」を設け学生募集の強化に意欲的に取り組んでいる。学生数名に対し修学指導担当教員一人を配置し毎月学生面談を行い、きめ細かい学修支援を実践している。経済的支援として独自の「金城大学学費減免奨学生制度」などを設けている。校地面積・校舎面積は設置基準を満たしており、アクティブ・ラーニングを重視し全館内で無線 LAN 環境を整え ICT（情報通信技術）環境を充実させている。キャンパス内はバリアフリーを適切に整備し、「学生との意見交換会」や「学生生活アンケート」を実施し、学生の要望に対応策を講じ回答を学内掲示している。

〈優れた点〉

○修学指導担当教員が一人当たり数人の学生を担当し、毎月修学ポートフォリオを利用した学生の面談を行うなど、きめ細かい学修支援を実践していることは評価できる。

「基準 3. 教育課程」について

各学部・研究科においてディプロマ・ポリシー及び成績評価基準及び単位認定基準を定

め、学生便覧に掲載し、学期ごとのオリエンテーション等で学生に説明し適切に運用している。また、カリキュラム・ポリシーを定め、キャップ制を設け、教育課程を体系的に編成している。教養科目の内容等について、「教育・学習支援センター」が点検し、導入教育を行い学生の自主的学修姿勢の醸成を図っている。三つのポリシーを踏まえた学修成果及び評価の方針を定め、入学時・在学時・卒業時アンケートなど多様なデータで学修成果を点検・評価している。授業アンケートの集計結果は学内電子掲示板「EIS(Kinjo University Electronic Information Service)」(以下「EIS」という。)によって全学生と全教職員に公開している。また、卒業時に全学生にディプロマ・サプリメントを発行し、学修成果を視覚的に捉える工夫を行っている。

〈優れた点〉

○授業アンケートの集計結果を「EIS」によって全学生と全教職員に公開し、学生のコメントを担当教員にフィードバックして教育の改善を図っていることは評価できる。

「基準 4. 教員・職員」について

学長は、大学運営委員会、教授会等の重要会議において議長を務め、大学運営における自らの所信や諸課題への対応方針を示し、適切にリーダーシップを発揮している。専任教員数は設置基準を満たし、教員の採用・昇任等は、「金城大学教員採用・昇任規程」等に基づいて適切に実施している。企画調査委員会が中心となり、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な FD 研修会を実施している。積極的な SD 研修会の開催に加え、人事考課制度・目標管理制度を取入れ、職員の資質・能力向上に積極的に取り組んでいる。「金城大学研究費使用規程」に基づき研究環境の整備を行い、学長裁量経費を活用した研究公募も行っている。「研究倫理委員会」を設置し、研究倫理の啓発を行っている。また、「研究推進センター」に相談窓口を設け外部資金導入の推進を図っている。

〈優れた点〉

○事務局職員の人事考課制度・目標管理制度の運営においては、重層的な規則・手続体系をきめ細かく制度設計し、PDCA サイクルを明示的に組込んだ目標達成度評定をルーティーンとして実践している点は高く評価できる。

○令和 3(2021)年度には高い頻度で SD 研修会が実施され、コンプライアンス教育、新人・若手職員教育、個人情報保護、コロナ禍対応等、複雑化する日常業務に適宜対応する工夫が行われている点は高く評価できる。

「基準 5. 経営・管理と財務」について

「学校法人金城学園金城大学・金城短期大学部ガバナンス・コード」を定め、教育機関としての経営を誠実に行っている。理事会では法人及び大学の重要事項について適切に審議を行い、常勤理事会を設置し理事会を支援している。理事長は毎週、大学・短大事務局長及び各部長と課題について意見交換を行い、リーダーシップを発揮している。学長は大学運営委員会などで関係教職員の提案をくみ上げている。評議員、監事の出席状況は概ね良好である。第 3 期中期計画及び年度予算編成方針に基づき実直に教学活動を行っており、

健全な収支状態を保っている。学校法人会計基準及び「学校法人金城学園経理規程」に基づいて適正な会計処理を行い、公認会計士又は監査法人による監査も厳正に実施している。

〈優れた点〉

○衛生委員会を設置し快適な職場環境の形成に努め、週1回の学内巡視などを行い保全・整備に取り組んでいることは評価できる。

「基準6. 内部質保証」について

大学は内部質保証に関する基本方針を有し、学長の責任のもと、企画調査委員会・IR委員会・教育改革推進室を包括する教学マネジメント会議を設置して月に1回程度開催し、教育研究活動等の改善策を内部質保証に関して一番の責任を負う大学運営委員会に上申し、企画立案の具現化に注力している。また、自己点検・評価委員会が中心となり「総括（点検・評価報告）」を作成し、「EIS」にも掲載し学内に公表するなど全学的な共有を図っている。大学は三つのポリシーを起点とした内部質保証を実質化するため、教学マネジメント体制を整え、常にPDCAサイクルを強く意識した実効化に努め、よく機能している。また、大学機関別認証評価における指摘事項や、設置計画履行状況等調査結果を踏まえた改善計画を策定している。

〈優れた点〉

○自己点検・評価結果について分析・評価にとどまらず、教学マネジメント会議を設置して教育研究活動等の改善向上に向け、改善策の企画立案を行い、PDCAサイクルを強く意識し、実践力ある体制づくりに努めている点は評価できる。

総じて、大学は情熱高く教学活動を誠実に遂行している。特に、大学の三つの教育の特色は、教職員に確実に共有され、教育に具体的に反映している。修学指導担当教員による月1回の学生面接など、きめ細かい対応は評価に値する。教学マネジメント会議などを機能させ、自己点検・評価（諸アンケート含む）結果を改善策につなげるPDCAの実効化に注力し、大学力向上・学生就学成就に実直かつ意欲的に取り組んでいる。

「大学独自の基準」として設定されている、「基準A.社会連携・研究活動」については、基準の概評を確認されたい。

なお、大学が「特記事項」として挙げたのは以下のとおり。

1. KICT(Kinjo Infection Control Team)
2. 金城コロナ対策学生リーダー&サポーター制度「アマビーズ」

Ⅲ 基準ごとの評価

基準1. 使命・目的等

【評価】

基準 1 を満たしている。

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

- 1-1-① 意味・内容の具体性と明確性
- 1-1-② 簡潔な文章化
- 1-1-③ 個性・特色の明示
- 1-1-④ 変化への対応

【評価】

基準項目 1-1 を満たしている。

〈理由〉

大学学則、大学院学則において、使命・目的を簡潔に文章化して明確に示している。大学の三つの教育の特色「明日の福祉社会を先導する保健・医療・福祉領域のリーダー的存在の養成」「初年次から最終学年に至るまで、学生一人ひとりに向き合うきめ細やかな教育」「地域とともに生きる保健・医療・福祉の推進に取り組む大学」を明確に掲げて全教職員の共通理解を図り、学生によく浸透している。大学の使命・目的及び教育目的は大学運営委員会を中心に継続的な見直しを行っており、社会のニーズに対し看護学部を設置するなど具体的に対応している。

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

- 1-2-① 役員、教職員の理解と支持
- 1-2-② 学内外への周知
- 1-2-③ 中長期的な計画への反映
- 1-2-④ 三つのポリシーへの反映
- 1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

【評価】

基準項目 1-2 を満たしている。

〈理由〉

大学の使命・目的及び教育目的の制定及び改定は、大学及び法人本部で検討の後、大学運営委員会及び教授会で審議し、理事会の承認を得て執行しており、「金城学園ガイド」、学生便覧、ホームページ等に掲載し学内外へ周知している。大学の使命・目的及び教育目的は第 3 期中期計画に反映し、三つのポリシーに生かしており、3 学部 5 学科 1 研究科を設置して円滑に教学活動を実践し、その具現化に努めている。また、学部と直結した委員会の配置により業務の効率化を図っている。

〈優れた点〉

○法人のビジョン・中期計画を理事長が毎年教授会で説明し、大学の使命・目的の再確認

を毎年組織的に行うなど、共有・浸透・実践に常に注力している点は評価できる。

基準 2. 学生

【評価】

基準 2 を満たしている。

2-1. 学生の受入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知

2-1-② アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

【評価】

基準項目 2-1 を満たしている。

〈理由〉

教育目的を踏まえアドミッション・ポリシーを定め、入学者選抜ガイド、学生募集要項に掲載するとともにホームページで公表し、周知を図っている。また、アドミッション・ポリシーに沿った学生を獲得するために、総合型選抜をはじめ多様な選抜制度を設け、入学者選抜実施委員会のもと、入学者選抜を公正かつ適正に実施している。毎年度、IR 委員会で入学者選抜の妥当性検証を行っている。

社会福祉学部は収容定員未充足の状態が続いているが、医療健康学部と看護学部は収容定員に対して適切な受入れ数を維持しており、大学全体としては概ね学生数を確保している。また、「戦略 WG」「学生プロジェクト WG」「高大連携 WG」を設け、学生募集の強化に意欲的に取り組んでいる。

〈参考意見〉

○社会福祉学部社会福祉学科及び子ども福祉学科については、定員未充足の状態が続いているので、学生確保に向けた今後一層の努力が望まれる。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

2-2-② TA(Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実

【評価】

基準項目 2-2 を満たしている。

〈理由〉

学修支援の組織体制は、教員組織と事務組織が緊密な連携のもと教職協働で取り組んでいる。また、学生数人に対し修学指導担当教員一人を配置し、修学ポートフォリオを利用し

て毎月学生面談を行い、連続欠席のあった学生には修学指導担当教員から連絡を取るなど、きめ細かい学修支援を実践している。

TA 制度により大学院生が TA として学部学生の教育に寄与している。また、「障がい学生支援ガイドライン」をもとに、各学部の障がい学生支援センター員が修学指導担当教員と連携して、授業、定期試験の配慮や学生生活で必要な環境づくりの合意形成を図り、支援している。

オフィスアワーの全学的な協力体制を確立しており、兼任教員を含めた全教員を対象としている。

〈優れた点〉

○修学指導担当教員が一人当たり数人の学生を担当し、毎月修学ポートフォリオを利用した学生の面談を行うなど、きめ細かい学修支援を実践していることは評価できる。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

【評価】

基準項目 2-3 を満たしている。

〈理由〉

教員組織の就職進学委員会と事務局組織の就職進学支援部、就職進学支援室、修学指導担当教員が学生の就職・進学支援に積極的かつ的確に取り組んでいる。

教育課程は専門職を強く意識した展開となっており、学内外での各実習科目が授業であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。福祉系・医療系以外への就職希望者については、3年次の選択科目「インターシップ」を正課科目として開講して、学生に対し当該科目の受講を促している。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

【評価】

基準項目 2-4 を満たしている。

〈理由〉

修学指導担当教員の配置、教学委員会及び教学支援部、保健管理センター、学生相談室を設置し、学生サービス・厚生補導に当たっている。

経済的支援として、日本学生支援機構奨学金などの奨学金制度の紹介や申請手続支援を行う他、独自に「金城大学学費減免奨学生制度」「成績優秀者奨学生制度」「家計急変奨学生制度」「遠隔地特別奨学生制度」を設けている。また、「高等教育の修学支援新制度」の対象校にも認定されている。学友会や後援会から課外活動へも経済的支援を行っている。

保健管理センターに看護師を、学生相談室に男女の臨床心理士をそれぞれ配置し、週 5 日開室して学生の心的支援・健康相談などに当たっている。また、COVID-19 感染拡大抑止のために、「金城感染制御チーム(Kinjo Infection Control Team; KICT)」を立上げて活動している。

2-5. 学修環境の整備

2-5-① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理

【評価】

基準項目 2-5 を満たしている。

〈理由〉

校地面積、校舎面積はいずれも設置基準を十分満たしており、校舎は各棟とも耐震基準に適合している。施設・設備の維持管理は、管財課が教職員と連携しながら行っている。

図書館、実習室などの教育研究に必要な設備を学内に整え、有効に活用している。また、アクティブ・ラーニングのための AL 教室・AL 演習室を整備し、全館内で無線 LAN 環境を整え、ICT 環境を充実させている。

学内施設はバリアフリーを適切に整備している。

教育効果を考慮したクラス編制を行う他、必要に応じて複数の教員を配置し、グループ別の授業を開講している。

2-6. 学生の意見・要望への対応

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

2-6-② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

【評価】

基準項目 2-6 を満たしている。

〈理由〉

授業指導方法の改善を目的に授業アンケートを実施し、結果を担当教員にフィードバックしている。ネガティブな意見は、学長、副学長、各学部長に報告し、当該教員との面談に役立てている。学修支援に関する学生の意見・要望を把握するために、「学生との意見交換会」を実施し、学生からの要望や意見については、教授会で情報共有した上で関係の委員会及び部署等へ伝え、必要に応じて対応策を講じるとともに回答を学内掲示している。

学修環境を含む学生生活全般に関する満足度等について学生生活アンケートを実施し、

結果は教授会で報告し、情報共有した上で関係する委員会、部署等へ伝えるなど、必要に応じた対応を行っている。

基準 3. 教育課程

【評価】

基準 3 を満たしている。

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

- 3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知
- 3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知
- 3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

【評価】

基準項目 3-1 を満たしている。

〈理由〉

全学、各学部及び研究科において、大学学則等に定める目的を踏まえたディプロマ・ポリシーを定め、学生便覧及びホームページに掲載し公表している。大学及び大学院それぞれの成績評価基準及び単位認定基準を定めており、学則及び学生便覧に明記している。また、各学部、研究科ともに進級基準は設定していないが、上級学年の授業履修要件という形で定めており、学生便覧に明記している。卒業認定基準、修了認定基準を明確に定めており、学則別表の表末に明記するとともに、学期ごとのオリエンテーション等で学生に説明している。総合リハビリテーション学研究科においては、学位論文に係る評価基準に基づき、厳正に評価を行っている。

3-2. 教育課程及び教授方法

- 3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知
- 3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性
- 3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成
- 3-2-④ 教養教育の実施
- 3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

【評価】

基準項目 3-2 を満たしている。

〈理由〉

全学、各学部及び研究科において、ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラム・ポリシーを定めており、学生便覧及びホームページに掲載し公表するとともに、学期ごとのオ

リエンテーションで説明し、学生への周知を図っている。キャップ制を設け、学生便覧に明記している。教養科目の内容や開講時期は、「教育・学習支援センター」が点検し、教学委員会を通じて学部内連絡会議に検討依頼をする体制を構築し、常に改善を図っている。また、導入教育を必修科目として開講し、学生の自主的学修姿勢の醸成を図っている。全ての科目のシラバスを作成しており、それぞれ授業計画及び成績評価基準を明記している。全教員対象の授業アンケートや公開授業、「学生との意見交換会」、FD 研修の実施、アクティブ・ラーニングの推進など、教授方法の改善に組織的に取り組んでいる。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

【評価】

基準項目 3-3 を満たしている。

〈理由〉

三つのポリシーを踏まえたアセスメント・ポリシーを定めている。入学時・在学時・卒業時アンケート、退学率、GPA(Grade Point Average)、修学ポートフォリオ、国家試験合格者数・率、専門領域への就職率、就職先へのアンケートなど多様なデータから学修成果を点検・評価している。また、毎年の実習指導者会議、2年に1度の外部評価会議を実施し、教育研究活動の改善に生かしている。授業アンケートの集計結果は「EIS」によって全学生と全教職員に公開している。また、評価の低い教員には学長または学部長が面談し指導を行っている。卒業時に全学生にディプロマ・サプリメントを発行し、学生が自身の学修成果を視覚的に捉えることができるようにしている。

〈優れた点〉

○授業アンケートの集計結果を「EIS」によって全学生と全教職員に公開し、学生のコメントを担当教員にフィードバックして教育の改善を図っていることは評価できる。

基準 4. 教員・職員

【評価】

基準 4 を満たしている。

4-1. 教学マネジメントの機能性

4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメントの構築

4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメントの機能性

【評価】

基準項目 4-1 を満たしている。

〈理由〉

学長は、大学運営委員会、教授会等の重要会議において議長を務めるとともに、大学運営における自らの所信や諸課題への対応方針を示し、教職員の理解向上に努め、リーダーシップを発揮している。

大学の計画策定・意思決定の支援のために IR 委員会を設置するなど学長が教学マネジメントを円滑に推進させる補佐体制を整備している。教学マネジメントにおいては、教学マネジメント会議において、教育研究活動等における企画や課題改善等に向け、データ分析及び改善策の立案を行い、実働組織としての委員会、自己点検・評価委員会の点検・評価を行うなど、体制を整えている。

主たる審議機関である教授会とともに大学運営委員会を置くことにより大学運営の円滑化を図っている。大学運営委員会では、教学側に加えて事務局長も構成員として参加するほか、大学の各委員会には事務局職員が構成員に入り、教職協働による教学マネジメントが機能している。

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

4-2-② FD(Faculty Development)をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

【評価】

基準項目 4-2 を満たしている。

〈理由〉

専任教員数は、設置基準を上回っている。教員の採用・昇任等の基準は、「金城大学教員採用・昇任規程」等を定めており、これに基づいて採用・昇任等を実施している。

企画調査委員会が中心となり、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の企画・立案・実施を行っている。学生や教員を対象としたアンケート結果に関する分析、学生との意見交換で得られた意見などを取込んだ FD 研修会を実施するほか、実際に教員が参観し、授業改善に取り組む公開授業、授業アンケートや教育職員表彰評価基準に関する調査等から選出する教育職員表彰制度を設けるなど、教育改善への動機付けを図っている。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD(Staff Development)をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み

【評価】

基準項目 4-3 を満たしている。

〈理由〉

人事考課制度・目標管理制度については、「事務局職員人事考課規程」「事務局職員人事考課実施細則」「事務局目標管理実施手順書」「事務局目標管理制度要項」「事務職員、技術職員及び用務職員の採用、昇任及び降任に関する規程」等の各種規則を整備し、職員の資質・能力向上に積極的に取り組んでいる。

第3期中期計画に基づく「金城学園の事務組織強化と職員の能力向上に関する計画」に沿って、所管部署の総務企画部を中心に職員の知識・技能習得、能力・資質向上を目的としたSD研修会を開催している。

〈優れた点〉

- 事務局職員の人事考課制度・目標管理制度の運営においては、重層的な規則・手続体系をきめ細かく制度設計し、PDCAサイクルを明示的に組込んだ目標達成度評定をルーティーンとして実践している点は高く評価できる。
- 令和3(2021)年度には高い頻度でSD研修会が実施され、コンプライアンス教育、新人・若手職員教育、個人情報保護、コロナ禍対応等、複雑化する日常業務に適宜対応する工夫が行われている点は高く評価できる。

4-4. 研究支援

- 4-4-① 研究環境の整備と適切な運営・管理
- 4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用
- 4-4-③ 研究活動への資源の配分

【評価】

基準項目 4-4 を満たしている。

〈理由〉

専任教員については、「金城大学研究費使用規程」に基づき用途を定めた個人研究費の年度配分、研究日の付与、研究室の確保等の研究助成を行っている。また、学長裁量経費の制度を活用した研究公募による支援を行っている。

「研究倫理委員会」が「金城大学研究倫理委員会規程」「金城大学研究倫理規程」を定め、不正行為の防止及び対応を目的とした「公的研究費の運営・管理及び研究活動における不正行為への対応等に関する体制整備指針」を整備して、研究倫理の確立と厳正な運用を図っている。

科学研究費助成事業等の外部資金獲得については、「研究推進センター」を中心に相談窓口を設けるとともに、「金城大学シーズ・ニーズ交流発表会」を開催する等の導入推進体制を整えている。

基準 5. 経営・管理と財務

【評価】

基準 5 を満たしている。

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

【評価】

基準項目 5-1 を満たしている。

〈理由〉

寄附行為、「学校法人金城学園管理運営規程」「学校法人金城学園金城大学・金城短期大学部ガバナンス・コード」を定め、法令を遵守し、教育機関としての経営を誠実に行っている。

令和 3(2021)年 4 月から 5 年間の第 3 期中期計画を策定し、建学の精神に基づく社会的使命・目的の実現に向け取り組んでいる。

衛生委員会を設置し、快適な職場環境の形成に努めている。人権委員会において、ハラスメントに関する諸規則を整備し、DVD 視聴による人権理解の啓発活動を行うほか、学内窓口の設置、外部機関窓口の活用も行っている。安全面では、学生も参加する防災訓練を行っている。

〈優れた点〉

○衛生委員会を設置し快適な職場環境の形成に努め、週 1 回の学内巡視などを行い保全・整備に取り組んでいることは評価できる。

5-2. 理事会の機能

5-2-① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

【評価】

基準項目 5-2 を満たしている。

〈理由〉

理事会において、法人及び大学の重要事項について適切に審議決定を行っている。理事の選任は寄附行為通り適切に行っており、理事の理事会における出席率も良好な状況である。

常勤理事会を設置し、法人及び法人が設置する学校の管理運営に関する一般業務において、理事長の諮問に応じて審議するほか、法人本部事務室が理事会及び常勤理事会の運営を支援するなど、適切に理事会が機能する体制をとっている。

5-3. 管理運営の円滑化と相互チェック

- 5-3-① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化
- 5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

【評価】

基準項目 5-3 を満たしている。

〈理由〉

法人は寄附行為、「学園管理運営規程」、大学は「金城大学管理運営規程」等に基づき運営している。理事長は、毎週、大学・短大事務局長及び各部長と課題について情報共有、意見交換、方向性の確認を行うなどリーダーシップを発揮できる内部統制を図っている。また、学長は、毎週学部長と情報共有等を行うほか、毎月の大学運営委員会において、教員幹部、事務局長等と協議を行い、関係教職員の提案をくみ上げる仕組みを整備している。

学長が理事となるほか、大学教員の2人を評議員に選任しており、また、理事長、副理事長、法人本部長及び事務局長は、全学教授会に出席するなど、双方の意思決定において意思疎通と連携を適切に行っている。

評議員、監事の選任は、寄附行為の規則に基づいて行っており、監査報告書により理事会及び評議員会に報告を行っている。監事・評議員の出席状況は概ね良好である。

5-4. 財務基盤と収支

- 5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立
- 5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

【評価】

基準項目 5-4 を満たしている。

〈理由〉

令和3(2021)年3月策定の「第3期中期計画の財務計画」及び年度予算編成方針に基づき法人本部が統合予算案を作成し、これについて理事長が評議員会の意見を徴した上で理事会に付議、決定している。

経常収支差額は継続的に収入超過を続けており、加えて、借入金を適切に活用し、安定した財務基盤を確立し、収支バランスの確保に努めている。

5-5. 会計

- 5-5-① 会計処理の適正な実施
- 5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

【評価】

基準項目 5-5 を満たしている。

〈理由〉

会計処理については、学校法人会計基準及び「学校法人金城学園経理規程」に基づいて適正な経理を行い、資産運用については銀行預金を中心とした安全性重視の管理を実施している。

公認会計士又は監査法人による監査については、公認会計士による厳正な監査を行っている。監事、公認会計士、監査室の連携による三様監査を適切に実施している。

基準 6. 内部質保証

【評価】

基準 6 を満たしている。

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

【評価】

基準項目 6-1 を満たしている。

〈理由〉

大学は内部質保証に関する基本方針を有し、「金城大学点検・評価に関する規程」に基づき自己点検・評価委員会を設置している。企画調査委員会・IR 委員会・教育改革推進室を包括する教学マネジメント会議を設置して月に 1 回程度開催し、教育研究活動等の改善策を内部質保証に関して一番の責任を負う大学運営委員会に上申し、企画立案の具現化に注力している。

〈優れた点〉

○自己点検・評価結果について分析・評価にとどまらず、教学マネジメント会議を設置して教育研究活動等の改善向上に向け、改善策の企画立案を行い、PDCA サイクルを強く意識し、実践力ある体制づくりに努めている点は評価できる。

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

6-2-② IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析

【評価】

基準項目 6-2 を満たしている。

〈理由〉

大学の内部質保証活動は、学長の責任のもと教学マネジメント会議を中心とした教学マ

ネジメント・教学 IR 組織体制でアセスメント・ポリシーを基本にして実施している。また、自己点検・評価委員会が中心となり「総括（点検・評価報告）」を作成し、教授会での報告に加えて「EIS」にも掲載し学内に公表するなど全学的に共有している。認証評価を受ける前年度には、点検評価報告書を社会へ公表している。IR 委員会において各種データの収集と分析を行い、その結果をもとに教学マネジメント会議で改善策の企画立案が行われ具現化に努めている。

6-3. 内部質保証の機能性

6-3-① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性

【評価】

基準項目 6-3 を満たしている。

〈理由〉

大学は三つのポリシーを起点とした内部質保証を実質化するため、教学マネジメント体制を整えている。教学マネジメント会議を設置して月に 1 回程度開催し、改善策の企画立案を内部質保証に関して一番の責任を負う大学運営委員会に上申し、常に PDCA サイクルを強く意識した実効化に努め、機能している。入学時・在学時・卒業時アンケートを行い、点検・評価活動に生かしている。大学機関別認証評価における指摘事項や、設置計画履行状況等調査結果を踏まえた改善計画を策定している。

大学独自の基準に対する概評

基準 A. 社会連携・研究活動

A-1. 大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

A-1-① Kinjo's Dream Project

A-2. 地域連携

A-2-① 大学施設の開放、公開講座など、大学が持っている物的・人的資源の社会への提供

【概評】

3 学部共同で「地域に根ざした保健・医療・福祉の学びを究める」ことを目標に、「KDP(Kinjo's Dream Project)」と銘打ち、七つのプロジェクトを推進している。地域高齢者に対して、アクティビティ・介護予防プログラムを実施する世代間交流事業の「ゆうがく広場」、認知機能チェックと認知症予防プログラムである「脳わかかわくらぶ」、また、山麓地域の高齢者の健康生活の維持活動を実施する「やまの保健室」や健康長寿達成者を対象とした健康チェックと評価を行う「地域健康長寿プロジェクト」など、多彩な事業を

展開している。加えて、幼児、児童、生徒の足の健全化事業である「足のけんこう教育プロジェクト」、中学生・高校生の部活動でのケガの発生・再発予防支援の「B-assist プロジェクト」、地域住民の健康づくりを支援する「悠遊健康サークル」など、活発な地域連携活動を行っている。

地域住民の健康保持、増進に寄与する多様な事業を立上げ、それぞれに学生が参加して教育研究活動の一環として実施しており、それが学生の意欲向上に寄与していることは特筆すべき取り組みといえる。

大学が持つ物的・人的資源を、公開講座の開催、地域住民対象のフォーラムの開催、施設設備の地域への開放、地域の各種委員会への教員の派遣、災害発生時の福祉避難所・災害ボランティアセンターの設置といった、さまざまな形で地域社会に提供している。

地域貢献を大学の使命・目的の達成要件として掲げ、大学の持つ資源を積極的に地域社会に提供することにより地域貢献を果たしていることは特筆すべきである。

特記事項（自己点検評価書から転載）

1.KICT(Kinjo Infection Control Team)

COVID-19 感染拡大により、学内の医師・看護師をはじめとする医療従事者や研究者が中心となり、学生及び教職員の健康を守るため並びにクラスターの発生を限りなく低く抑えるという目的で「KICT(Kinjo Infection Control Team)」を立ち上げた。KICT の主な活動は次のとおりである。

(1) オンライン健康行動履歴チェックシート

学生の健康管理を実施するに際し、キャンパス内の全ての学生から当日の健康行動履歴をオンラインで集約できるシステムを運用している。

(2) 学内の感染ラウンド&環境パトロール

キャンパス内における感染対策のため、施設の環境改善を行うために、笠間キャンパス及び松任キャンパスの感染ラウンドを実施した。密集した講義室の変更やアクリル板の設置や高さの調整、足踏み式アルコール噴霧機の導入、換気の方法、課外活動へのアドバイスなど多岐に及んでいる。

(3) 教職員及び学生に対する感染教育

教職員に対しては、SD 研修会を開催し啓発活動を行い、学生に対しては、オリエンテーションのプログラムとして講演を行った。

(4) 学生・教職員からのアンケート調査

学生及び教員に対し、定期的にアンケート調査を行った。内容は COVID-19 に対する学生の認識や行動、教員の講義についての細目など多岐にわたっている。

2.金城コロナ対策学生リーダー&サポーター制度「アマビーズ」

KICT が立ち上がったことを受け、学生の感染予防に対する意識が向上した。大学内における感染対策意識を高めるため、また、正しく感染症を恐れながらも、有意義な学生生活が最大限に維持し得るよう、共に感染予防の最善策を考える仲間を募集すべく、金城コロナ対策学生リーダー&サポーター制度「アマビーズ」を創設した。アマビーズの活動と内容は次のとおりである。

<内容>

- (1) サポーター資格を取得するため、研修会を受講。オンラインで5回（学科）と10回の実技・実習後、修了証が発行され、「金城コロナ対策学生サポーター」となる。
- (2) 自主的に感染サーベイランスや環境調査などを行い、定期報告会で発表を行うことで、「金城コロナ対策学生リーダー」と認定される。

<講習>

学科（各2時間・オンライン受講と意見交換）	実習（各5時間）
SARS-CoV2 とは	感染予防実習
COVID-19 について	手指消毒の実態調査
標準予防策について	黙食の実態調査
看護・介護における感染予防策	リーダー研修会
コロナ禍における活動	定期報告会（サーベイランス&勉強会）